

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

長崎鼻リゾートキャンプ場施設整備計画「デジタルアートを活用した新たな誘客促進計画」

2 地域再生計画の作成主体の名称

豊後高田市

3 地域再生計画の区域

豊後高田市の区域の一部（恋叶ロード（国道213号沿線）地域）

4 地域再生計画の目標

4-1 地方創生の実現における構造的な課題

豊後高田市の地域経済活性化に大きな波及効果が見込まれる観光分野であるが、交流人口の増加と合わせて、重要になってくるのが宿泊者数と観光消費額の増加である。

本市の観光入込客数（H29）は全体で1,198,165人となっており、そのうち宿泊者数は、85,809人で全体のわずか7%にとどまっている。これは同年の大分県全体の平均値39.2%を大きく下回っており、宿泊施設そのものが少ない本市にとって、民間投資による大規模な宿泊施設整備の見込みがない中で大きな構造的課題と言える。

観光消費額の増加に大きなプラス要因となり得る滞在時間については、宿泊の場合でも1泊2日が全体の68.1%（H29年）となっており、滞在型観光地とはなっていない状況にある。加えて観光サービス単価が少額であることから、一人あたりの観光消費額も2,479円（H29年）と依然として低い水準である。

長崎鼻リゾートキャンプ場においては、通年型の収益施設として、平成24年4月にキャンプ場の管理棟内に、地元特産品を販売する売店兼レストランをオープンさせた。売店では長崎鼻で咲いたひまわり、菜の花から搾油したオイル

や海産加工物等を販売し、レストランではそのオイルや地元食材を使ったメニューを提供している。オープンから7年経過するが、夏場のハイシーズン以外や花が咲いていない時期、キャンプ需用が激減する、冬シーズンの集客が課題となっており、近年では年間販売額も減少傾向にある。また、同じく事業収益の柱となるキャンプ場宿泊客も同様の課題を抱えており、キャンプ場が安定した収益を確保し、自立した持続可能な観光地とは成り得ていないのが現状である。

以上のことから、長崎鼻リゾートキャンプ場の構造的課題を整理すると以下のとおりとなる。

- ① 長崎鼻キャンプ場内にある地元特産品を取り扱う売店、レストランの販売額が減少傾向にある。特にキャンプ場閑散期の事業収益確保が課題となっている。花が咲いていない時期などに新たな魅力を付加させ、来訪を促し消費喚起する取り組みが必要である。
- ② 長崎鼻キャンプ場の収益の柱である宿泊客も①と同様に閑散期の誘客が課題となっている。
- ③ 夏以外にも長崎鼻に「訪れたい」と思わせるような魅力的なコンテンツが必要であり、滞在型観光地としての確立を目指すためには、年間を通じて集客が見込める施設が売店兼レストランゾーンに欠如していることが課題となっている。
- ④ 観光消費額の増大を目指すため、健康志向や本物志向などに訴求できる、より付加価値の高いコンテンツ・メニューの開発が課題となっている。

4-2 地方創生として目指す将来像

【概要】

本市では総合戦略に基づき、さらなる交流人口の増大を目標に“訪れたい”と思わせる魅力的な地域への創生に取り組み、他の移住定住等の施策も絡め、総合力で“住みたい”“住み続けたい”まちへと発展させていく取り組みを、市をあげて実施している。

その中において、交流人口の増大として、効果の波及拡大が見込まれるの

が観光分野である。そのため、これまで本市の強みである「海」「里」「山」「温泉」など、豊かな自然景観、天然資源、健康食材などを活かした滞在型・着地型観光を推進してきた。特に、「豊後高田昭和の町」から「長崎鼻」までの海岸線を走る国道213号沿線には、日本夕陽百選に選定された「真玉海岸」、縁結びの神様「粟嶋社」、2000万本の「菜の花」や140万本の「ひまわり」などが咲き誇り、アート作品が演出する「花とアートの岬長崎鼻」など、女性の嗜好にあった観光スポットが点在しており、これらの観光スポットを繋げ、「女性、カップルが集まる新たな観光エリア」とすべく、平成25年3月、恋が叶う道＝「恋叶（こいかな）ロード」と銘打ち、各種事業を行っている。

特に、「恋叶ロード」は海辺の道で、リアス式海岸や遠浅の砂浜が広がるなど風光明媚な観光スポットとなっているが、この強みを最大限に活かすため、平成28年度から、この美しい海辺を舞台にNPO法人長崎鼻B・Kネットを中心に組織する「パーフェクトビーチ・里海ヘルスツーリズム推進協議会」が、長崎鼻リゾートキャンプ場を核として、主に海辺の付加価値を高めるため、「安全・清潔・快適な海水浴場（パーフェクトビーチ）」をコンセプトとした海辺の環境整備を実施している。あわせて温泉・海洋療法（タラソセラピー）のノウハウを導入することにより、豊後高田市オリジナルの健康リゾートづくりの実現を目指している。

他にない、個性豊かな地域資源を活かした、「特色ある観光地づくり」により、都市圏から誘客促進に取り組んできた結果、RESASの国内観光客指定地域別誘客回数においても、長崎鼻リゾートキャンプ場は、平成26年からの4年間で1.8倍の伸びを示しており、その高いポテンシャルを活かした事業効果が確実に発現している。平成30年11月には、「花とアートの岬 長崎鼻」プロジェクトが、国土交通省の手づくり郷土賞に選定されたほか、最近では映画のロケ地になるなど、全国的にも注目を浴びており、当地域が持つ魅力の高さが改めて実証され、今後のさらなる飛躍への大きな追い風となっている。

長崎鼻は、「恋叶ロード」の出発点にあたる市の観光拠点である「昭和の町」に対して終着点に位置しており、この長崎鼻の観光振興を図ることは、

動線にある他の観光地の集客増に寄与し、市全体の観光浮揚と活性化につながることから、市としては最重点施策に位置付け、長崎鼻を一大観光拠点にすべく各種事業を推進している。

現在、長崎鼻リゾートキャンプ場の“強み”となっている広大な花畑に、美しい花が咲いていない時期でも、いつでも長崎鼻の「花やアート」などの魅力が伝えられ、かつ“訪れてみたい”と思えるような魅力的な通年型誘客施設の整備を実現させることにより、さらなる誘客促進と観光消費拡大による地域の活性化につなげていく。

【数値目標】

| K P I | 事業開始前 (現時点) | 2019年度増加分 1年目 | 2020年度増加分 2年目 |
|----------------------------|----------------|------------------|------------------|
| デジタルアートギャラリー入館者数 (千人) | 0 | 0 | 13.4 |
| キャンプ場内売店兼レストランの販売額 (千円) | 17,617.0 | 0 | 528.51 |
| 恋叶ロード沿線施設の観光入込客数 (千人) | 66.0 | 0 | 3.3 |

| 2021年度増加分 3年目 | 2022年度増加分 4年目 | 2023年度増加分 5年目 | KPI増加分 の累計 |
|------------------|------------------|------------------|---------------|
| 1.0 | 1.4 | 3.1 | 18.9 |
| 725.82 | 943.57 | 1,188.89 | 3,386.79 |
| 4.16 | 5.14 | 6.29 | 18.89 |

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

海岸部を主体とした事業として、規模が比較的コンパクトで、事業に最適な長崎鼻リゾートキャンプ場を核とした「安全・清潔・快適な海水浴場（パーフェクトビーチ）」を整備し、海水浴場（キャンプ場）の活性化を目指すとともに、森のゾーンを主体にした事業として、「花とアート」をテーマに

した癒しの空間となるデジタルアートギャラリーとアウトドアサウナ施設を整備し、さらに付加価値を高めることにより、キャンプ場全体の活性化を目指す。また、ヨーロッパを中心に実施されている海洋療法（タラソテラピー）と温泉療法のノウハウを導入することにより、本市の特色ある「海」「温泉」「健康食」等の小規模な地域資源を新たな視点で統合させることで、豊後高田市オリジナルの複合型のヘルスツーリズム（自然環境を活かした海洋・温泉療法）の確立を目指す。あわせて多様化する観光客のニーズに沿った魅力ある宿泊施設の整備等により、周年を通じた誘客促進が可能となり、滞在型観光の推進とともに観光消費額の増加を図る。

本事業の実施により、主に都市圏の若者、女性及び外国人旅行者をターゲットとした誘客促進による交流人口増を図るとともに、「パーフェクトビーチ&タラソテラピー」という先進的な施策により、地域の魅力とブランド力を向上させ、新たな雇用の創出と持続的な地域活性化を図る。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ 地方創生拠点整備交付金（内閣府）：【A3007（拠点整備）】

① 事業主体

2に同じ。

② 事業の名称

長崎鼻リゾートキャンプ場施設整備計画「デジタルアートを活用した新たな誘客促進事業」

③ 事業の内容

本市の観光振興を図るため、長崎鼻リゾートキャンプ場の「森のゾーン」の売店兼レストランの近くに、長崎鼻固有の資源である「花とアート」をテーマにした癒しの空間として通年型誘客の核となる「デジタルアートギャラリー」を整備する。

キャンプ場を訪れた誰もが気軽にデジタルアートを通じて、いつでも長崎鼻の美しい花などを五感で体験できるデジタルコンテンツを提供することで

一年中立ち寄ってみたいと思える魅力的な場所にする。

周囲には既に多くのアート作品が点在しており、本施設を整備することにより、いっそうテーマ性が高まり誘客促進に大きな相乗効果が期待できる。

また、本施設への動線にはキャンプ場管理棟があることから、相乗効果として管理棟内にある売店兼レストランの利用客増が見込まれ、地元特産品等の販売促進による産業振興にも寄与することから「産業振興政策」とも連携を図る。

さらに、本施設を整備する「森のゾーン」は松林に囲まれた静かな空間が広がっており、「健康づくり」の場としても最適である。既に取り組んでいるタラソテラピー施術の場やワークショップ等を開催する交流拠点施設としても活用する。

なお、本事業の推進にあたっては、すでに実施している温泉・海洋療法（タラソテラピー）との組み合わせによる新たな滞在型健康増進プログラムの構築など「健康増進施策」と連携して取り組む。また、高齢者、障がい者等の多様な人々が観光を楽しめるユニバーサル視点での観光地づくりを目指すものであり、「社会福祉政策」との連携も行う。

これらの連携事業の結果、魅力的な地域づくりが実現し、交流人口拡大による都市部からの「人の流れ」ができ、最終的には「定住促進政策」との連携による地方創生の実現につながる。

したがって、本事業は「観光振興政策」、「産業振興政策」、「健康増進政策」、「社会福祉政策」、「定住促進政策」の連携により実施するものであり、政策間連携を推進する中で、長崎鼻リゾートキャンプ場全体の魅力をさらに高め、事業収益の向上と地域の活性化を目指すものである。

④ 事業が先導的であると認められる理由

【官民協働】

ア 豊後高田市は、長崎鼻リゾートキャンプ場での取組のベースとなる施設の維持管理について、指定管理者と協働で実施していく。「デジタルアートギャラリー」の整備にあたっては、より付加価値の高い施設となるように、市が「パーフェクトビーチ・里海ヘルスツーリズム

推進協議会」や「地元自治会」等の関係機関と協議、連絡調整を行いながら、方向性を決定した上でデジタルアートを手掛ける先進的な民間企業を選定し発注する。また、広大な花畑の維持や花づくりを全面的に支援するとともに、組織横断的に6次産業化の取組などを支援する。

イ 長崎鼻リゾートキャンプに新築する「デジタルアートギャラリー」については、豊後高田市の広域観光を担う「豊後高田市観光まちづくり株式会社」が管理運営を行う予定である。なお、その整備にあたっては、「デジタルアートギャラリー」という特殊性・専門性が高い施設であることから、既に本市にデジタルアート作品を常設展示している先進的な民間企業等との連携を視野に、観光客ニーズを捉えた魅力的な施設整備を行う。運営にあたっては、広域観光のマネジメントを手掛けている「豊後高田市観光まちづくり株式会社」を中心に、同キャンプ場の指定管理を受託する「NPO法人長崎鼻B・Kネット」、同キャンプ場内で農業の6次産業化を手掛ける「㈱油花」及び「豊後高田市観光協会」で組織する「パーフェクトビーチ・里海ヘルスツーリズム推進協議会」が協働し、多様な民間ノウハウを取り入れることで、より付加価値の高い施設運営を行う。

ウ デジタルアートギャラリーの「肝」となる「デジタルアートコンテンツ」の制作についても、先進的な民間企業等と連携し、他にはない長崎鼻ならではのアート作品を制作・提供することにより、施設としての付加価値を高めていく。

エ 施設の新設だけでは、すぐに入館者の増加につながらないため、他のソフト事業を組み合わせた連携事業や一体的な情報発信等のプロモーションを展開する。長崎鼻リゾートキャンプ場全体としては、滞在型健康リゾート地の実現を目指していることから、既に取り組みを進めている「安全・清潔・快適な海水浴場（パーフェクトビーチ）」事業と温泉・海洋療法（タラソテラピー）事業との連携を図るため、パーフェクトビーチ構想を提唱する「東海大学海洋学部」、「タラソテ

ラピー」を提唱する「一般社団法人SPALOHAS倶楽部」などと協働して事業組立を行っていく。

【政策間連携】

本事業は、観光地である長崎鼻リゾートキャンプ場を核に、通年型誘客施設であるデジタルアートギャラリーを整備し付加価値を高めることにより、さらなる誘客促進を図る「観光振興政策」のみにとどまるものではなく、隣接する売店兼レストランと協働し、地元特産品等の販売促進による「産業振興政策」とも連携を図る。

また、アートを通じ大人や子どもたちに芸術・文化に触れる機会を増やすことで、情操教育にも活用していき「社会教育政策」との連携も図るとともに、施設を舞台に、温泉と海洋療法（タラソテラピー）のノウハウを取り入れた「健康増進政策」との連携による滞在型保養リゾートづくりを通じた、本市オリジナルのヘルスツーリズムの推進にも活用する。

これらの連携事業の結果、魅力的な地域づくりが実現し、交流人口拡大による都市部からの「人の流れ」ができ、最終的には「定住促進政策」との連携による地方創生の実現を目指すものである。

したがって、本事業は「観光振興政策」、「産業振興政策」、「社会教育政策」、「健康増進政策」、「定住促進政策」の連携により実施するものである。

【地域間連携】

ア 隣接する国東市と連携し、長崎鼻を含む国道213号沿線の観光スポットをつなぐ「恋叶ロード」や「開運ロード」を活用した誘客事業や花公園づくりなどの各種観光振興事業を推進している。

イ 豊の国千年ロマン観光圏（大分県北部の8市町村：別府市、杵築市、国東市、豊後高田市、宇佐市、中津市、日出町、姫島村で構成）において、滞在型の観光エリアの形成を目指すため、マーケティング調査・分析、滞在プログラムの造成等広域周遊観光促進のための環境整備を実施している。

- ウ 大分県北地域（豊後高田市、宇佐市、中津市）が連携し、「おおいたノースエリア絶景周遊スタンプラリー」などの観光周遊促進事業や都市圏での誘客イベントへの参加など観光情報の発信を行っている。
- エ 長崎鼻リゾートキャンプ場における観光発信事業についても、他市町村との連携を図りながら、広域観光圏として各種観光振興施策に中で一体的に展開していく。

【自立性】

- ア 「デジタルアートギャラリー」の運営は、広域観光をマネジメントする「豊後高田市観光まちづくり株式会社」を主体に、長崎鼻リゾートキャンプ場の指定管理を受託する「NPO法人長崎鼻B・Kネット」、同キャンプ場内で農業の6次産業化を手掛ける「栲油花」及び「豊後高田市観光協会」の4団体で組織する「パーフェクトビーチ・里海ヘルスツーリズム推進協議会」が連携して展開し事業収益を増加させ自立化を図る。
- イ 「デジタルアートギャラリー」の事業収益について、市内にある類似施設が、デジタルアート人気の高まりから、近年入館者が増加傾向にあり、既に周囲の観光資源に恵まれ立地的にも優位にある長崎鼻リゾートキャンプ場に整備することから相乗効果も期待され、類似施設よりも多くの誘客が見込まれる。新たな通年型誘客促進施設となる「デジタルアートギャラリー」の完成4年後の事業収入を約7,300千円と試算しており、新設による事業収入増が確実に見込まれることから、収益基盤が確立する。加えて既存類似施設との連携を図ることで、類似施設の事業収入増も期待される。
- ウ キャンプ場全体の付加価値向上のために整備する「デジタルアートギャラリー」は、キャンプ場内施設としては、国内でも例がない先進的な取り組みであり、花が少ない時期や集客力が著しく低下する秋冬シーズンにおける新たな観光需要の掘り起しと、ハイシーズンである夏場の観光客の更なる取り込みが可能となる。
- エ 「デジタルアートギャラリー」完成4年後の同施設の動線にあたる

「キャンプ場内売店及びレストラン」の事業収入を平成29年と比較し約3,400千円の増と試算しており、同施設の相乗効果により、キャンプ場全体の事業収入増が確実に見込まれることから、収益基盤が確立する。

オ 「デジタルアートギャラリー」の整備により、キャンプ場全体の集客力は確実に向上し、相乗効果により既存宿泊施設を含めた施設全体の年間を通した稼働率向上も着実に図られることから、キャンプ場全体の事業収入が増加し、運営の自立化が実現できる。

⑤ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4-2の【数値目標】に同じ。

⑥ 評価の方法、時期及び体制

【検証方法】

外部有識者の産官学金労言及び民で構成する「豊後高田市まち・ひと・しごと“全力”創生プラン」の総合戦略会議を6月頃に開催し、前年度の実績の報告を行い、専門的な助言をいただく。KPIの達成状況だけではなく、KPI以外での事業効果についても検証を行う。助言内容については、当該年度の事業実施や新年度予算編成への反映を行っていく。

【外部組織の参画者】

産：豊後高田商工会議所 官：大分県 学：県立高田高等学校
金：大分銀行 労：連合大分 言：大分合同新聞社

【検証結果の公表の方法】

検証結果は、豊後高田市ホームページで公表する。

⑦ 交付対象事業に要する経費

- ・ 法第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

総事業費 150,000千円

⑧ 事業実施期間

地域再生計画の認定の日から2024年3月31日まで

⑨ その他必要な事項

特になし

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) 長崎鼻景観づくり事業

ア 事業概要

長崎鼻は、花とアートの岬として、本市を代表する観光地となり、多くの観光客を集客している。また、地域固有の自然や歴史、伝統、文化や地場産業等を貴重な資源として認識し、積極的に利活用した魅力ある地域づくりの成功例として、国土交通省所管の「手づくり郷土賞」をはじめ、数々の賞を受賞している。そのため、長崎鼻における景観形成の根幹である花づくり（菜の花16.5ha、ひまわり15.5ha、コスモス1.5ha）を実施するもの。

イ 事業実施主体

NPO法人 長崎鼻B・Kネット

ウ 事業実施期間

2007年4月1日から2024年3月31日まで

6 計画期間

地域再生計画の認定の日から2024年3月31日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

5-2の⑥の【検証方法】及び【外部有識者の参画】に同じ。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

4-2に掲げる目標について、7-1に掲げる評価の手法により行う。

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

5-2の⑥の【検証結果の公表の方法】に同じ。